

2. 指導訓練事業（児童部門）

1. 概 要
2. 実 績
3. 個別指導・グループ指導
4. 世田谷区発達障害相談・療育センターとの連携
5. 保護者支援
6. スーパーバイズ

《児童部門》

1. 概 要

【目的】

発達・発育に遅れや障害のある乳幼児を対象に、豊かな成長を促し、日常生活の自立に必要な力や社会性を早期の段階から育てていくことを目的に相談・指導を行っている。

【形態】

- ① 運動機能やことばの遅れなど、障害の種別と発達段階に応じた指導を個別のプログラムに基づいて行う。(個別専門指導)
- ② 小集団での活動を通して、身の自立に向けた生活面の指導や言語・社会面の向上を目的に、年齢や発達段階に応じたグループを編成して指導を行う。(グループ指導)

【対象者】

指導の対象は区内在住で、発達や発育に遅れや障害のある未就学児とする。指導訓練は、保護者同伴通所を原則としている。相談は18歳までとする。

【相談から指導・訓練への流れ】

相 談

- ①電話または窓口で相談を受け付ける。相談の内容により医療機関等紹介する。
- ②療育を希望する場合は、初回面接日を予約する。

初回面接・発達検査



- ①相談員が、主訴、成育歴、家庭環境等の聴き取りを行う。
- ②臨床（発達）心理士が発達検査を行う。
- ③乳幼児の状態に応じて後日、言語聴覚士が聴力検査・言語評価を、理学療法士、作業療法士が運動評価を行う。

小児専門医相談



小児科の専門医による面談を行う。

カンファレンス



評価等の結果を総合し、処遇方針を検討する。

評価会議



カンファレンスで検討した処遇方針を決定する。

指導・訓練の開始

児童発達支援計画に基づいた指導・訓練を行う。

2. 実 績

(1) 初回相談・インテーク・専門医相談・評価会議

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初回相談	54	50	71	76	49	66	64	75	62	58	59	58	742
インテーク	31	32	33	28	32	28	33	28	32	28	34	32	371
専門医相談	39	43	34	30	28	30	38	27	26	27	34	39	395
評価会議	41	30	34	40	25	15	38	37	23	32	22	37	374

※専門医相談・評価会議は、平成24年度にインテークをしたケースも含む。

(2) 評価会議後の処遇一覧

処遇	心理	言語	理学療法	作業療法	評価G	終了他	計
人数	65	85	57	23	119	41	390

※複数の専門指導を受ける場合は、複数でカウントしている。

(3) 評価（ひよこ）グループ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	31	40	34	24	24	24	24	23	21	14	11	40	310

※評価（ひよこ）グループは、専門医相談後のカンファレンスでグループ指導が適切であると決定したお子さんを対象に、該当グループを決定するための評価を行う。

(4) 評価（ひよこ）グループ終了後の処遇一覧

(単位：人)

心理	言語	理学療法	作業療法	保育G	次年度 処遇	終了	保留	計
7	6	0	1	79	24	1	1	119

※個別指導は、経過観察を含む。

(5) 検査・評価実績

(単位：人)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
理学療法	新規	2	6	6	10	3	4	4	5	1	5	6	3	55
	再評価	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
作業療法	新規	5	5	12	7	7	5	5	6	14	4	12	12	94
	再評価	0	4	2	0	1	1	3	3	0	1	1	2	18
心 理	新規	28	31	33	28	32	28	32	28	32	28	34	32	366
	再評価	22	26	34	52	48	35	37	46	51	46	44	41	482
言 語	新規	30	31	29	20	26	26	29	22	31	25	31	36	336
	再評価	1	10	8	6	7	10	7	11	5	8	7	3	83
計	新規	65	73	80	65	68	63	70	61	78	62	83	83	851
	再評価	23	40	45	58	56	46	47	60	56	55	52	46	584

※新規は、インタークと他職種からの評価依頼を含む。

※言語は、聴力検査と言語評価を行っている。

(6) 指導内容別（延べ人数）

個別指導

年度 \ 区分	理学療法	作業療法	心 理	言 語	栄養指導	計
25 法内 (児童発達支援)	1,731	963	1,483	1,973		6,150
25 法外 (児童機能訓練)	91	313	175	195	111	885
24 法外+法内	1,594	1,441	1,992	2,089	92	7,208

グループ指導

年度 \ 区分	保育グループ
25 法内 (児童発達支援)	3,566
25 法外 (評価グループ)	310
24 法内+法外	4,435

3. 個別指導・グループ指導

《理学療法》

1 個別指導

頻度：個別4～1回／月、経過観察1回／2～3ヶ月（各45分／回）

指導内容

①身体機能	寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行、階段昇降等の発達促進 姿勢調整・保持能力向上促進
②摂食指導	D r. 診察に同席し、摂食時の姿勢や口腔機能を確認 個別訓練指導の中で継続指導
③補装具・日常生活用具の活用・検討	バギー、座位保持椅子、下肢装具、頭部保護帽等の検討
④環境調整	自宅への訪問による、椅子等の物品の工夫 住宅改修の検討
⑤他機関との情報交換	連絡メモを通じて保育園等との情報交換

2 評価ケース〈56 ケース内訳〉

疾患別	
1. CP群	6
2. 後天性脳障害	3
3. 水頭症	1
4. てんかん	0
5. 神経・筋疾患	0
6. 奇形症候群	2
7. 染色体異常	21
8. 脊髄疾患	2
9. PMR	6
10. 自閉症・PDD	1
11. MR	5
12. 運動発達障害	4
13. その他	5

出生時体重・周産	
低出生体重児	15
極低出生体重児	0
超低出生体重児	5
早産児	8
超早産児	4

医療ケア	
経管栄養	1
気管切開	2
酸素（常時）	2
酸素（夜間）	1

処遇	
月4回	2
月3回	1
月2回	45
月1回	4
経過観察	0
ひよこGへ	0
評価のみ	4
相談	0

3 その他

相談・指導	件数
住宅改修相談 延べ件数	2
補装具相談 福祉用具相談	8
訪問指導	1

4 スーパーバイズ

(1) 目的 評価・訓練・指導について知識・技術向上をはかる。

(2) 内容 月1回、指導場面をみていただき、終了後にカンファレンスを行い、意見交換やアドバイスを受ける。

《作業療法》

1 個別指導

頻度：個別 2～1 回／月、経過観察 1 回／2～3 ヶ月（60分／回）

指導内容

①粗大運動	バランスや協調運動、感覚調整能力の向上促進
②手操作	巧緻動作の向上促進、道具操作能力向上促進
③日常生活動作	食事・更衣等の動作の向上促進
④摂食指導	D r . 診察に同席し、摂食時の姿勢や口腔機能を確認 個別訓練指導の中で継続指導
⑤補装具・日常生活用具の活用・検討	バギー、座位保持椅子、保護帽等の検討
⑥環境調整	自宅への訪問による、椅子等の物品の工夫 住宅改修の検討
⑦他機関との情報交換	連絡メモを通じて保育園等との情報交換

2 評価ケース〈112 ケース内訳〉

疾患別		処遇	
1. CP群	10	月2回	3
2. 後天性脳障害	2	月1回	50
3. 水頭症	1	経観A	14
4. てんかん	1	経観B	2
5. 神経・筋疾患	2	経観C	0
6. 奇形症候群	2	ひよこへ	0
7. 染色体異常	21	いずれ再評価	10
8. 脊髄疾患	1	評価のみ	30
9. PMR	15	相談	3
10. 自閉症・PDD	33		
11. MR	12		
12. 運動発達障害	3		
13. その他	9		

3 その他

相談・指導	件数
住宅改修相談 延べ件数	0
補装具相談 福祉用具相談	2

4 スーパーバイズ

- (1) 目的 補装具・福祉用具についての専門性を高め、相談技術の資質向上をはかる。
- (2) 内容 制度等の基礎知識から事例検討を通じて相談技術を学ぶ。

《心理》

1 個別指導

頻度：個別1回/月、経過観察1回/2～3ヶ月（60分/回）

指導内容

①認知課題	概念やカテゴリーの理解 模倣性の向上
②言語コミュニケーション課題	やりとり性の向上 コミュニケーション手段の獲得（要求・意志表示等） 言語理解の促進
③社会性の課題	遊びのルール（交替・順番等） あいさつや社会的マナー
④手操作課題	はさみ・のり・筆記具等の扱い方
⑤就学に向けての課題	ひらがなの読み書き

相談内容：保護者の精神保健へ配慮しながら、子どもへの対応の助言・障害理解の促進を行う。
また就園・就学に向けた情報提供や支援を行う。

2 心理グループ

前期 年長児グループ

(1) 対象児

グループA： 知的に境界域で集団行動に課題を抱える児

グループB： 知的に軽度の遅れ～境界域で集団行動に課題を抱える児

(2) 指導目的

- ① 就学に向けて、集団活動のルールに沿って参加する機会を持ち、集団参加への意欲を育てる。
- ② 身体を動かす課題や簡単なゲーム、手先の課題、学習の基礎となる課題などに取り組み、達成感を味わうことで、興味・関心の幅を広げる。
- ③ 大人や友だちとの関わりを通して、一緒に活動する楽しさを感じとりコミュニケーション能力を育む。
- ④ 就学に向けて、情報提供や保護者支援を行う。

(3) グループ実績

	実施回数	指導実人数	延人数
A	11	7	60
B	11	6	53

(4) グループの概要

	A	B
期 間	平成 25 年 5 月～ 9 月（2回/月）	平成 25 年 5 月～ 9 月（2回/月）
定 員	7 名	6 名
職員体制	心理士 2 名、保育士 2 名	心理士 2 名、保育士 2 名
主な活動	着席課題・製作・ルール遊び・係活動	着席課題・製作・ルール遊び・係活動

(5) グループワーク（保護者対象）

A・B 共通	
第1回	・自己紹介『はじめまして』
第2回	・グループの目的とねらい
第3回	・個別支援計画面談
第4回	・就学相談
第5回	・グループの感想
第6回	・園や家庭での子どもたち
第7回	・アンケート
第8回	・アンケートの結果から、「知りたいこと」
第9回	・グループを振り返って
第10回	・個別支援計画面談

後期 4歳児グループ

(1) 対象児

知的に境界域で集団行動に課題を抱える児

(2) 指導目的

- ① 小集団での活動を通して、ルールに沿って参加する機会を持ち、幼稚園・保育園での集団活動への参加意欲を高める。
- ② 身体を動かす課題や簡単なルールのあるゲーム、手先の課題などに取り組み、達成感を味わうことで、興味・関心の幅を広げる。
- ③ 大人や友だちとの関わりを通して、他者と一緒に活動する楽しさを感じ取り、コミュニケーション力を伸ばす。

(3) グループ実績

実施回数	指導実人数	延人数
10	4	34

(4) グループの概要

期間	平成25年10月～平成26年3月（2回／月）
定員	4名
職員体制	心理士2名、保育士2名
主な活動	着席課題・製作・ルール遊び・係活動

(5) グループワーク（保護者対象）

保護者は同室か観察室から活動を見学。全員でのグループワークは実施せず、毎回グループ活動終了後に個別に当日の振り返りを含めて話をした。

3 スーパーバイズ

第1回 8月21日	『年長児グループのプログラム構成・集合の内容』 『保護者対応』『他機関利用者の扱い』『後期グループ編成』 (実際のグループを見学してもらう)
第2回 11月15日	『就学に向けた軽度MR児への個別課題の選択』 『視覚認知の問題が考えられる児への配慮と個別課題の選択』

《言語》

1 個別指導

指導内容

①言語理解	聴理解・認知理解の向上
②言語表出	語彙力・説明力・文の構成力の向上 構音の改善・吃音の軽減
③コミュニケーション	ことばのやりとりの向上 ルールの理解（役割交替・ゲームや遊びでの会話のルール）

頻度：個別1回/月 経過観察1回/2～3か月（60分） 年長児の構音指導2回/月（30分）

2 言語グループ

(1) グループ実績

実施回数	指導実人数	延人数
66	42	183

(2) グループ概要

グループ名	にんじゃ（年長児）	定員	8名
体制	言語聴覚士1名（後期2名） 保育士2名（後期1名）		
対象児	知的能力は正常域だが、聴覚的理解力と視覚的理解力の個人内差が大きい児		
目標	1) 小集団の中で考え、答える力を身につける 2) 視覚的なヒントを活用しながら、聴覚的理解力の向上を図る 3) 集団で学習するときのルールを身につけ、行動する		

グループ名	とまと（年長児）	定員	8名
体制	言語聴覚士1名（後期2名） 保育士2名（後期1名）		
対象児	年齢に比して幼く、小集団での学習経験が必要な児		
目標	1) 小集団の中で考え、答える力を身につける 2) 集団で学習するときのルールを身につけ、行動する 3) ルールのある遊びを友だちと一緒に楽しむ		

グループ名	どんぐり（年長児）	定員	8名
体制	言語聴覚士1名（後期2名） 保育士2名		
対象児	知的能力に軽度の遅れがあり、手厚い支援を要する児		
目標	1) 小集団で目の前の大人に一定時間注目して、友だちと一緒に取り組む 2) 簡単なルールのある遊びを友だちと楽しむ		

グループ名	にんじん（4歳児）	定員	8名
体制	言語聴覚士1名 保育士1名		
対象児	知的能力に遅れはないが、他児との言葉のやりとりに支援を要する児		
目標	小集団で目の前の大人に一定時間注目して、友だちと一緒に取り組む		

3 言語プール

(1) 指導目的

- ① 親子で一緒に活動することで、自然なスキンシップを促し、親子関係を深める。
- ② 呼吸を整え、口腔を意識して動かすことで、発声・発音の基礎を作る。
- ③ 水中でリラックスしながら、自然に言葉を引き出し、コミュニケーション意欲を育てる。

実施回数	指導実人数	延人数
23	18	107

4 言語評価

(1) 初回相談・聴力検査再検

	検査バッテリー	目的
① 聴覚	COR/Peep Show/Play/ 標準純音聴力検査 ティンパノメトリー	ことばを聴いて覚える幼少期に聴覚の問題があると、ことばの発達に影響を及ぼす可能性があるため、聴力低下や中耳炎の有無を確かめる。
② 言語表出・言語理解・構音	ことばのテストえほん	言語理解・表出・構音・状況説明等が総合的に確認できる検査。
	絵画語彙発達検査 (PVT-R)	理解語彙年齢が算出できる簡易な検査。名詞だけでなく抽象語の理解をみることもできる。
③ コミュニケーション態度	検査場面の様子を観察	アイコンタクトの有無、対人意識の有無、要求の方法、応答性などのコミュニケーション態度を観察。
④ 問診	家族歴 (吃音・難聴の有無など) 既往歴	きこえやことばについての相談を受けたり、家庭での様子を確認する。

※初回接見時の状況や発達段階により検査内容に変更あり

(2) 言語相談・処遇変更

構音検査・絵画語彙発達検査・S-S法検査等を実施し、言語理解・言語表出・コミュニケーションについて確認している。

5 スーパーバイズ

第1回 6月25日	『PDDが疑われる吃音児について』 『母子ともに緊張・不安の高いケース』
第2回 2月25日	『PDD傾向のある発達性協調運動障害の一児』 『家族支援について～精神疾患を持つ両親とその姉妹～』

《保育グループ》

1 指導目標

グループ指導を通して、身近の自立をはじめとする生活能力・集団生活に必要な社会適応能力を高め、よりスムーズに集団に参加できるよう援助する。

2 グループ編成

年齢や発達状況に応じてグループ編成を行っている。グループの決定は、評価（ひよこ）グループに参加し、適したグループを決定する。

前期 グループ編成と実績

(単位：人)

	時間帯	グループ名	頻度	定員	実人数	延人数
1歳児	9:45～ 10:45	ねこ	週1回	6	6	57
2歳児	10:00～ 11:45	りす	週1回	8	8	128
		うさぎ		8	7	121
		くま		8	8	132
		いぬ		8	7	138
2歳児	10:00～ 11:15	ぱんだ	週1回	8	6	104
		きつね		8	8	83
3歳児	10:00～ 11:45	らいおん	週1回	8	7	111
		ぞう		8	6	76
	14:00～ 15:30	つき	週1回	8	8	139
		たいよう		8	8	116
		くも		8	6	108
		ほし		8	8	166
3歳児	14:00～ 15:30	ねずみ	週1回	8	5	68
		とら		8	6	93
4歳児	14:00～ 15:30	こあら	週1回	8	8	130
肢体系	11:15～ 12:30	こじか	月2回	10	7	35
		ちょうちょ		10	3	30
計					122	1835

※肢体系は3か月に1回、グループ中に摂食指導を行う。

後期 グループ編成と実績

(単位：人)

	時間帯	グループ名	頻度	定員	実人数	延人数
1歳児	9:45～ 10:45	ねこA	月2回	6	6	55
		ねこB		6	6	41
2歳児	10:00～ 11:45	りす	週1回	8	8	116
		うさぎ		8	8	119
		らいおん		8	8	106
		くま		8	7	129
		ぞう		8	8	160
		いぬ	8	7	116	
2歳児	9:45～ 10:45	ぱんだ	週1回	8	3	41
	11:15～ 12:30	きつね	週1回	8	5	84
	14:00～ 15:30	たいよう	週1回	8	7	74
3歳児	14:00～ 15:30	つき	週1回	8	7	101
		くも		8	5	87
		ほし		8	7	127
		ねずみ		8	5	104
		とら		8	3	72
4歳児	14:00～ 15:30	こあら	週1回	8	8	110
肢体系	11:15～ 12:30	こじか	月2回	10	5	61
		ちょうちょ		10	3	28
計					116	1731

※肢体系は3か月に1回、グループ中に摂食指導を行う。

3 グループ指導の概要

期間	基本的には6か月（同グループでは1年）
職員体制	保育士・心理士・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具を使つての運動あそび ・手操作玩具 ・着席課題 ・感触遊び（粘土、砂、豆） ・製作（はさみ、のり、シールなど） ・描画（ペン、クレヨン、絵の具等など） ・水あそび（夏季のみ） ・散歩

4 グループ指導の流れ

《支 度》	<p>◎シールを貼る、自分のマークの場所にタオルをかける等の支度を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でしようとする力を育てる。 ・活動の「始まり」を意識し、物の所有の認識も育む。
《あそび》	<p>◎様々な道具や遊具を使って遊び、色々な感触に触れる経験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して集中力を育み、興味の幅を広げる。 ・手先の巧緻性や、目と手の協応動作等を遊びの中で育む。 ・大人とのやりとりの中で、発語や言葉の理解を促す。 <p>◎大人と一緒に、全身を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人と一緒に遊ぶ中で、身体を動かす楽しさを伝える。 ・粗大運動を十分経験する事で、身体づくりをする。
《集 合》	<p>◎友だちと一緒に一定時間着席課題に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆あいさつ ☆スキンシップ ☆簡単な体操・リズム・模倣遊び ☆簡単なゲーム遊び ☆おはなし <p>などの活動を通して、着席姿勢を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人の簡単な指示を理解して行動し、大人の働きかけに応じる経験をする。 ・人や物に注目し、応答姿勢を育む。
《食 事》 《おやつ》	<p>◎友だちと一緒に弁当またはおやつを食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食器や食具操作、望ましい食べ方や姿勢を知る。 ・準備や片付け、挨拶などを通して食事のマナーを身に付ける。
《帰りのあいさつ》	<p>◎簡単な手遊び、帰りの歌を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の『終わり』を意識する。

5 スーパーバイズ

保育グループ：大石 幸二先生

平成 25 年 10 月 3 日 (木)	<p>◎保護者対応について 事例検証</p> <p>◎保護者のタイプ分類と対応について</p> <p>◎ロールプレイ：グループワーク時の保護者対応について</p>
平成 25 年 11 月 15 日 (金)	<p>◎ロールプレイ：面談時の保護者対応について</p> <p>◎保護者のタイプ別にどう支援していくか</p>
平成 26 年 2 月 26 日 (水)	<p>◎評価グループで使用した保育グループ分析表の振り返りと、次年度に向けた保育グループ分析表の作成</p> <p>◎保育個別分析表の作成</p>

肢体系グループ：原 泰夫先生

平成 25 年 5 月 29 日 (水)	こじかグループ ◎グループ運営の手法について ◎ケースを配慮した遊びの設定と展開
平成 25 年 6 月 26 日 (水)	ちょうちょグループ ◎グループ運営の手法について ◎ケースを配慮した遊びの設定と展開
平成 26 年 8 月 21 日 (水)	ちょうちょグループ ◎あそびの設定や子どもへの対応について
平成 25 年 10 月 23 日 (水)	こじかグループ ◎あそびの設定や子どもへの対応について
平成 26 年 1 月 29 日 (水)	◎姿勢・歩行・移動・バランスのアプローチの仕方、次のステップへの イミング、設定とその援助の仕方 ◎事例(写真)から、対応の仕方を学ぶ

4. 世田谷区発達障害相談・療育センターとの連携

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」と総合福祉センターでは、各々の専門性を生かした相談、療育を行っている。

社会性・コミュニケーションスキルの獲得等を目的とした療育が必要な児童については、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」への移行を行っている。

平成25年度移行人数	78人
支援後の移行	67人
新規評価後の移行	11人

5. 保護者支援

先輩お父さんお母さんの話を聞く会

保護者支援の一環として、総合福祉センターを利用していた保護者の体験談を通じ、進路選びについて情報を得る機会を設けている。

実施日	内 容	参加人数
5月15日	就学について（第1回）	50人
5月23日	就学について（第2回）	38人
6月10日	就園について	37人

6. スーパーバイズ

各専門職のスキルアップのため、スーパーバイズを依頼している。

対 象 職 種	スーパーバイザー	回数
理学療法士・作業療法士	前心身障害児総合医療療育センター 理学療法士 原 泰夫 氏	月1回
理学療法士・作業療法士	東京都心身障害者福祉センター 作業療法士 谷川 知嘉子 氏	年3回
心理士	立教大学現代心理学部 教授 大石 幸二 氏	年2回
言語聴覚士	文教学院大学人間学部・大学院人間学研究科 准教授 柄田 毅 氏	年2回
保育士	立教大学現代心理学部 教授 大石 幸二 氏	年3回

